名古屋交通圏タクシー活性化協議会議事録

（第1回ワーキンググループ）

１．開催日時：平成３１年２月１９日（火）　１０：００～１２：００

２．会　　　場：名古屋合同庁舎第一号館 １１階会議室

３．出 席 者：出席者名簿のとおり

４．記録・記載：中部運輸局自動車交通部旅客第二課

【事務局】

* WGの開会の目的は、昨年11月に開催された本協議会において地域交通サポート計画を策定することについて伝えさせていただいたところです。自治体に関係する取扱いについて本WGで議論をさせていただきたい。
* 今後、自治体訪問をする際の考え方等についても議事の中で確認させていただきます。また、名古屋交通圏の一部の自治体（豊明市、長久手市）では、既に乗合タクシーの実証実験を行っているので該当自治体から説明していただくことにしています。
* 名古屋のタクシー日本一戦略のフォローアップを行うにあたって幾つかお願いさせていただきます。
* 最後に愛知県内のUDタクシーの導入状況、助成、インターネットを活用した白タク行為の問題点（全タク連資料）を取り上げさせていただきます。
* 今後、自治体訪問の際に首長にこれらの説明及びお願いをしていくことをご承知願います。

【加藤会長】

* 国土交通省において地域交通フォローアップイノベーション検討会開催。昨年11月から数えて5回目となる検討会を15日午後に出席した。会議では、MaaS、シェアリング等がある中で公共交通はどうしていくか。国の支援はどうしていくか。といったことを検討している。
* 全タク連（第一交通）の田中さんが、地域課題に対応、自治体と連携（地域交通サポート計画のこと）、いろいろな実験等を行っていると話していた。
* 名古屋交通圏は、当会議が機能していて、自治体においてもタクシーを活用した実験を行い適正化、活性化しているということをどんどんPRしていかなくてはいけない。他の地域では全然行っていないので、この地域はいい（環境）取組みをしていると思う。
* 新しい技術と、地域のニーズうまく合わせ、各タクシー事業者のポテンシャルを発揮し、地域で必要な移動を確保していくことが重要。自治体と業界が意見を出し合い全体でやっていく必要がある。そうすることで、相乗りの運賃、タクシーを使っていろんなことを行えるようにする制度の見直し等地域に合った仕組みを提案していける。（国の制度作りの参考にしてもらえるように）地域公共交通会議でもタクシーの活用、他の交通とリンクし全体の移動を確保していくかを検討していただきたい。

【議事概要】

（１）「地域交通サポート計画」の策定について

　＜事務局から資料１により説明＞（H30.11.27の協議会確認事項の再確認）

【加藤会長】

* 各県単位（協会単位）で地域交通サポート計画を作成していく。
* タクシーがそれぞれの地域で公共交通にどのように貢献していくか。
* タクシー協会が運輸局の協力のもと作成していく。
* サポート計画を作成するだけでは何もできない。名古屋交通圏では、活性化協議会の議論があり、地域公共公会議等の場においても議論している。他の地域と違い、やるべきことを計画していくということになるので、スピード感が違う。この協議会での計画となることから、戦略となる日本一戦略に組込むこととなり戦略を書き換える必要が出てくる。

【豊明市】

* 地域交通サポート計画は、乗合タクシーの導入について提案されるのか。

【事務局】

* 乗合タクシーだけでなく、ドライバーの派遣、運行管理等タクシードライバーの有効活用を考えていきたい。自治体訪問を通してニーズを把握すれば提案できることも違ってくると考えている。

【加藤会長】

* 全タク連が乗合タクシーの事例集を作成しているが、自家用だけでなくタクシーが行っている事例集を作成していく必要がある。
* 自家用有償、タクシーの相乗り、乗合等について、国土交通省では、いろいろな検討が行われていると聞いている。官邸等からも制度の見直しについて意見があるようで、今後数年の間に大きく変わることが見込まれる。

（２）「地域交通サポート計画」策定に係る今後の進め方について

　＜事務局から資料２～５により説明＞

【加藤会長】

* 資料２の１P最下段、地域交通サポート計画を戦略にどのように入れていくかということ。
* 事務局としては、（案）の２を新たに追加していく方向でいきたいということである。

【名古屋市】

* 昨年の協議会で戦略を平成35年まで延伸したという理解であるが、WGでサポート計画を戦略に追加（変更）するという発議がなぜ起こってくるのか。協議会でやるべきでは。また、内容として戦略の内容と被る場合は。

【事務局】

* 協議会の前段として、自治体に直接関係することであるので、WGでの議論・共通認識として、協議会に諮っていきたいと思っている。次回の協議会において、新旧を対比するもの新たな活性化の目標等を追加していくこととなるので、同時に被る部分についても整理していきたいと思っている。戦略の中でサポート計画をどう位置付けていくかお尋ねしたということある。

【加藤会長】

* 重複はいいが、矛盾、齟齬はまずい。サポート計画は提案となるが、戦略に記載することで自治体としても納得し一緒に実施する段階になる。名古屋交通圏は一緒に考えていきたいと思っていることから当WGにて議論したいということである。

【愛知県】

* 地域交通サポート計画を自治体と調整し30、31年で策定していくという理解でいるが、首長、関係部局に対し業界が提案していった際に、地域公共交通会議と一致しない場合の整合性はどうするのか。

【事務局】

* 首長訪問を行うことで、直接的に話を聞くことでタクシーからどのような提案ができるかを直接話せると理解している。課題整理票で把握でききれない部分も直接話を聞くことで分かる部分があると思う。
* 最終的には、協議会の中でどうしていくかが重要で、タクシー協会、事業者が共有していくことが大事。以前から全ての自治体の協議会に、タクシー協会、タクシー事業者が参加できていないという点を指摘させていただいている。
* 愛知県でも広域の計画を作ることは制度的、法的にも可能である。全国でも２、３あるので、ぜひ検討していっていただきたい。

【愛知県】

* 協議会の中で議論していく前提で、首長、関係部局を訪問する。自治体と話をしていくということで理解ができた。県においても愛知公共交通ビジョンに協会が参加されているので、そちらでお願いしたい。

【加藤会長】

* 本来、地域交通サポート計画は本協議会と関係ないものである。タクシー協会が運輸局の協力を仰ぎながら、首長訪問等を通じ自治体の情報を収集しニーズに対応したタクシー業界が貢献できることを提案していく計画である。公共交通会議で議論せずに提案するだけでは、不可能である。
* 名古屋交通圏の公共交通会議がある自治体においては、タクシー関係者が出席し議論をしているので、自覚を持っていただいている。サポート計画で実施したいこと、自治体で実施したいことに一歩踏み込んでいる、本協議会でも議論していることから、実効性あるものとして戦略に記載していく方がよい。地域公共交通会議で、タクシー業界が説明、議論し決まったことを記載していくという話である。そこで、重要なのは、資料５の裏面、地域公共交通会議に該当地域のタクシー事業者が参加していない状態で本当に議論が可能なのかとなるので、会議の場に事業者が参加し議論した方が、サポート計画、戦略に反映しやすいので検討して欲しい。

【事務局】

* 自治体ごとに事業者を取りまとめているが、地元の事業者で出来ない場合でも地区ごとに全体で対応を行う。今まで、情報共有が上手く出来ていなかった点を反省し、このサポート計画を期に協会HP（会員サイト）を活用し情報共有をしていく検討を行っている。

【豊明市】

* 資料２の最下段の（案）の１、２の議論かと思うが、実施主体がタクシー協会になることから、戦略に位置付ける際に地方公共団体の取組みでないことからも必然的に（案）の２になるという理解でよろしいか。

【事務局】

* タクシー協会、タクシー事業者の提案を受けて自治体がどう対応していくかとなるので、地方公共団体という記載もでてくる。どのように連携するかということからも協会だけのものではないと考えている。

【加藤会長】

* 通常のサポート計画であれば、タクシー事業者が何をやっていくかということしか書きようがないが、名古屋交通圏の場合は、自治体と一緒にやっていくことをサポート計画に記載していくことから、（案）の１、２どちらでも問題ない。

【鈴木副会長】

* （案）の２については、異存はないが記載について「地域交通サポート計画」となっている。まずは作ることが大事で、動かしていくとなるとプレイヤーの話が出てくる。策定及び推進と記載いただければと思う。

【加藤会長】

* 地区ごとでの提案は可能なのか。

【名タ協　天野会長】

* 地区ブロックが、交通環境等ではなく、５ブロックに分けて単純に隣接市町村をくっつけた形である。地域交通サポート計画は、今まで業界が自治体に対してアプローチが少なかったことからタクシーの特性、活用が伝わっていないことからご理解いただき、地域の移動で必要なこと、困っていることを聞きながら、タクシー事業者が出来ることを提案していくという手順で理解している。
* 自治体の移動の問題点をタクシー業界が一部でも解決できないかということが織り交ざって、名古屋は進んでいる。既にいくつか自治体でタクシー事業者が取り組んでいる事例があるので情報の共有をしていただき、環境変化の中でライドシェア等道路運送法の規制枠の必要な部分での緩和が考えられる。事業者も従来の概念にこだわらずに実効性のある提案をしていく。特にタクシーのドア・ツー・ドアといった特性を最大限活用すべく議論し提案できればと思う。

【名タ協　石川副会長】

* 地元の事業者が主体となって提案には対応するが、地元の事業者が対応出来ない場合でも、地区で問題を共有し地元に近い事業者が対応している。豊明市においても南地区で対応した事例もある。今まで、首長と業界が密に話をする機会がなかったので、場を提案いただき地区で情報共有し対応することもできる。

【加藤会長】

* 資料２については、自治体と話し合って進めていくこととなることから、書きぶりを調整し（案）の２でいく。正式には協議会で決定していくという方針で問題はないでしょうか。ご意見はないでしょうか。

　＜事務局から資料６により説明＞（協会内での自治体訪問の考え方）

【加藤会長】

* 地域公共交通会議のない自治体は訪問しなくてはならない。交通会議がある自治体でも新たな取組みを考えているのであれば密に議論をしていく必要がある。

【豊明市】

* 来年度は統一地方選で、首長が変わる等あるかもしれないので配慮をお願いしたい。

【事務局】

* 県のHPに任期の記載がある。首長が代わった後は、特に効果的と考えている。

【日進市】

* 首長等が代わると方針がガラッと変わることがある。モビリティーに関しては各自治体いろいろな戦略があるが、地域交通サポート計画の見直しサイクルは。PDCAサイクルの期間は。

【事務局】

* 今、予定等決まっていない。今後、運賃制度の弾力化、アプリの活用等、次回の戦略の改定に盛込み、どのように改定していくか自治体のみなさん、構成員と議論し、適宜適切な対応をしていきたいのでご意見等いただければと思う。

（３）その他

　＜「相乗実証実験の取組報告」を豊明市から自治体作成資料により説明＞

【加藤会長】

* 勅使台地区の乗合タクシー（徳重行）はどういう運行か。ダイヤは決まっているか。雨の日が乗降が増えた等はあるか。

【豊明市】

* ダイヤ等はなく５分ヘッドで集まり次第出発するということで、４台で実施した。乗り場所が勅使台の集会所、降り場所が徳重の紳士服店の駐車場の各１か所で実施。送迎をターゲットとし、帰りはバラつきもあり乗り合わせも難しいことから朝だけの実施とした。
* 実験期間中、雨の日は１日だけで雨だから乗車するという事例もあったが、乗り場所まで来るのがつらいと逆に乗客が減った。時期的な問題として、大学が休み期間中だったこともありターゲットの学生を拾えなかった。

　＜「相乗実証実験の取組報告」を長久手市から自治体作成資料により説明＞

【名タ協　石川副会長】

* 長久手市の想定した相乗り率と比較し、マッチング率が芳しくないと判断をされているが、スタートして、利用回数で考えると評価が高いと思う。この結果で結論を出すのは時期尚早だと思う。自家用車から公共交通に乗り換えていただくということを推進していただくのが意義だと思う。バス、タクシーにとってプラスになることを考えていただきたい。

【加藤会長】

* 三重県の多気町で同様なことを６年行っている。多気町の場合はありとあらゆる場所に停留所を設けることで、日に３０人程度乗車している。公共交通が他にないこともあり需要が十分ある。長久手市の人口、他に公共交通があることから考えても１５０人は将来的に十分見込める数字だと思う。

【長久手市】

* ２ヶ月と短い期間なので、今ある生活リズムを変えづらい、自分で相乗りする相手を見つける必要があると思っていた等の意見もあった。

４．戦略のフォローアップについて

　＜事務局から資料７、８により説明＞（後日、メールで依頼するための）回答依頼

５．その他

（１）ユニバーサルデザインタクシーの導入計画（状況）について

　＜事務局から資料９により説明＞

（県内のUDタクシーの実績及び各市町の補助状況について説明。）

* 首長訪問の際にも補助要望をしていきたい。
* 災害時に燃料確保が問題となる、その際においてもガス協会と優先的にタクシーに補填ができるよう取組みを進めている。
* お年寄り、障害をお持ちの方などについては優先的な避難誘導に対応できるタクシー車両でもある。

（２）インターネットを利用した白タク行為の問題点（全タク連）について

　＜事務局から資料１０－１、２により説明＞

* これについても、首長訪問の場で直接首長に説明及び議会対応をお願いしたいと考えている。

【事務局】

* 自治体訪問について、協会内においても決めきれていないが、日程調整は、直接自治体にさせていただくので、日程調整が難しいとは思うが可能な限り首長さんとの対応をお願いしたい。

【加藤会長】

* 本日のWGで意識共有していただいたので、今のところ秋のWGは開催しない予定である。情報提供をしっかり行っていただくこと、訪問については、本日欠席の自治体、協議会のない自治体、課題のある自治体、要望される自治体が主になる。